

評価結果概要表

作成日 平成 22 年 1 月 22 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0570512632号
法人名	シャカイフクシ ホウジン キョウエイカイ 社会福祉法人 久盛会
事業所名	グループホーム田園 <sup>デンエン</sup>
所在地	由利本荘市岩城富田字根本10-22 (電話) 0184-62-5115
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成21年12月4日

【情報提供票より】 (平成21年11月19日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 (常勤 9 人 非常勤 常勤換算 7 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 400 円
	夕食	550 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 0 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	8 名	男性 0 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	3 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.3 歳	最低 80 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐々木医院、蔵小路歯科クリニック、あまさぎ園内歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

利用者の尊厳や安全・安心に配慮し、家族や地域と交流しながら生きがいを持った生活を支援することを事業所の介護目標・理念に掲げ、ユニット会議や勉強会で事例検討しながら実践に努めている。  
事業所は母体老人保健施設と隣接しているため、医師や看護師による24時間の医療体制や管理栄養士による栄養管理、緊急災害時における連携協力体制を確立しており、利用者及び家族の安心につながっている。  
また、利用者はエプロンや割烹着を身に付け、笑い声の溢れる家庭的な雰囲気の中で支え合いながら生活しており、法人母体の精神病院や系列施設等と連携しながら利用者の在宅復帰を支援するなど効果的な実践につながっている。  
スーパーバイザーとなっていた管理者が異動したことで、これまでのレベルを落とさないよう管理者と職員が一丸となって取り組んでおり、評価結果を活用したり全職員を常勤雇用することでモチベーションを高め、利用者へのサービスに直結させている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)	運営推進会議への行政の関与が増え、家族交流会による意向把握や看取りに関する指針の共有、母体施設と連携した栄養管理など、前回評価結果を受けて具体的な改善につなげている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	職員一人ひとりが評価の意義や目的を理解して自己評価に取り組み、日々のケアを振り返り、モチベーションを高める機会として話し合いながらサービスの向上につなげている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	家族や複数の町内会など多くの地域住民が参画し、利用者の状況報告や外部評価結果に基づく課題等について意見交換しており、会議の開催日にあえて避難訓練を実施して課題を明らかにし、防災マニュアルを見直すなど緊急災害時の連携・協力体制の充実につなげている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	意見箱や第三者委員の設置など、利用者及び家族の意見や苦情を把握するための体制を整えているほか、家族交流会を実施して潜在的な意向の把握に努め、運営やサービスに反映させている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	法人が建てた多目的施設「あまさぎ荘」を活用し、お茶会や創作活動などを通じてボランティア等と連携を図り、地域の敬老会に参加して友人や知人と交流している。 また、地域への出前講座を行い、認知症及び事業所への理解と協力を得るとともに、緊急災害時における協力体制を確保している。
	重点項目④	

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>								
<b>1. 理念と共有</b>								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念に基づき、地域の中でできる限りその人らしい生活が出来るよう、事業所の理念、目標は明確かつ具体的なものをつくりあげている。			多様化する介護ニーズに柔軟に対応するという法人理念に基づき、利用者の尊厳や安全・安心に配慮し、家族や地域と交流しながら生きがいを持った生活を支援することを事業所の介護目標・理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	業務の見直しやカンファレンス等では、立ち返りとなるようにしており方向性は一致している。職員一人一人の能力の引き出し、実践の段階にあり日々の人材育成と共に取り組んでいる。	○	事例検討を通じてのバールアップと人材育、OJT、OFFJTの活発化を図る	事務所内に介護理念を掲示し、日々の申し送りやミーティング、毎月のユニット会議などで事例検討しながら理念の共有に努めている。		
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族、地域交流会の実施、地域学生ボランティア交流運営推進会議の開催、地域の行事、祭りへの参加、地域への出前講演などにより広く理解を得られるようにしている。					
<b>2. 地域との支えあい</b>								
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員は率先した挨拶を心がけており、散歩時には世間話や庭を見せていただくなどの付き合いができています。隣接する多目的施設でのお茶会の開催や見学者との交流がある。					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の祭り、敬老会、文化祭への参加、地域参加型避難訓練では、地域の方々の協力も得られた。			法人の「あまさぎ祭り」での交流や地域のボランティアによる踊りや創作活動などのほか、法人が建てた多目的施設でのお茶会など交流の機会づくりに努めている。 また、地域住民が気軽に事業所に立ち寄り、利用者の散歩時には声をかけ、地域の敬老会に参加して友人と関わるなど、地域との交流機械の確保に努めている。		
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所としては、認知症への理解を深めてもらうための勉強会、親睦会を地域の方達と一緒に開催した。	○	多目的施設かやぶき荘での交流会（お茶会・食事会・体操教室）			
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々の振り返りとなり、問題の明確化、新たな目標設定へとつながっている。			職員一人ひとりが評価の意義や目的を理解して自己評価に取り組み、話し合いのうえ管理者がまとめている。 また、評価によりケアを振り返り、モチベーションを高め、サービスの向上につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動の状況や実際のケアの状況を具体的に報告し、出席者からの意見、質問をいただいております、サービス向上に活かしている。			家族や複数の町内会など地域住民の参画が多く、利用者の状況報告や外部評価結果を提示して運営上の課題等について意見交換している。 また、前回調査で課題としていた行政の参画が得られ、会議開催時にあえて避難訓練を実施して災害時の対応と協力を依頼するなど、連携を図りながら事業所運営に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	実地指導時、職員との直接対話の場面もあり、連携を図ることが出来、健全な運営につながっている。			地域包括支援センターから書類関係等の実地指導を受け、連携を図りながら運営及びサービスにつなげている。	○	運営推進会議以外の行政との関りが少ないため、認知症サポーター養成研修に携るなど、行政と共に取り組んでいくという姿勢で積極的に関わりを持つよう働きかけてほしい。
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業、成年後見人制度などの研修会に参加し、理解を深め、支援が出来るように努めている。					
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する法人内での勉強会の参加、実地指導で配布された資料での周知徹底を図っている。運営推進会議でも取り上げ、早期発見、防止に努めている。					
<b>4. 理念を実践するための体制</b>								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	さまざまな職種の関係職員が関わり、家族の負担の軽減を図りながら、ご家族、ご本人が望む最もふさわしいサービスが受けられるように支援している。					
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	傾聴の姿勢は常にあり、雰囲気作りにも心がけている。また、運営推進委員、第三者委員などの来園により、それぞれの意見が運営に反映されている。					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時の報告、体調変化についての都度の電話連絡を行っている。また、定期的に広報の発行、請求者郵送時に手紙や写真を添えるなどして細やかな報告も実施している。	○	面会時、ケアプラン説明時にヒヤリハットノートの報告をする。	事業所の広報で行事や全体の状況を報告し、利用者一人ひとりの状況を手紙で知らせているほか、法人の広報「あまさぎ」でも情報提供に努めている。 また、行事などの際に家族交流会を実施しているほか、面会時や介護計画説明時などにも連絡やヒヤリハットノートを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体として、苦情解決委員会を設置しどの窓口へも申し立て出来るようになっている。また、意見箱の設置もある。運営推進会議、面会でも意見の引き出しに努力している。			意見箱や第三者委員の設置など、利用者及び家族の意見や苦情をサービスに反映させるための体制を整えている。 また、前回評価結果を受けて家族交流会を実施するなど、意向を把握するために取り組みを工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に耳を傾ける姿勢にあり、報告、連絡、相談が速やかに行われる体勢にあり、意見も反映されている。					
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員は全員常勤採用されている。また、ケアに専念するために設備、外回り点検、受診の支援、外出や行事など法人全体でサポートしている。					
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	大幅な異動は行っていない。バーンアウトの回避やスキルアップのための異動はサービスの質の向上の観点からも必要とは考えている。離職者は減っている。			定期的な異動は行っておらず、全職員を常勤雇用とすることで離職率も低下しており、利用者との馴染みの関係を構築している。 また、新任職員を「見慣れない人」と認識するため、夜勤も含めて当面は新任と現任の二人体制で支援するなど、利用者の不安感の解消に努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で定期勉強会が開催されており、レベルや目標に応じた参加が出来る。事業所内でも、事例検討会や自己投資型の勉強会を開催し、外部の研修へも参加している。			法人全体の施設内研修計画を立て、感染・褥瘡・事故防止対策やスキルアップなどの専門委員会を組織して研鑽しているほか、外部研修には職員の希望などを取り入れながら参加している。 また、事業所独自の勉強会「かや学会」を計画的に実施し、事例検討を交えながらスキルアップにつなげている。	○	職員の将来像や資格取得など一人ひとりの当面の目標を定め、そのために必要な知識やスキルを明確にし、内外の研修計画に反映させるとともに、その達成度を評価して次年度の計画に反映させるなど、段階的なスキルアップにつながる仕組みについて検討してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内の連絡協議会を通じ、職員交流、研修会、相互訪問などを行い、同じ職種の職員同士が共感したり、レベルアップできるよう支援している。			圏域の連絡協議会に加入し、管理者及び職員が相互に事業所見学したり、事例検討会などの研修や交流を図りながら、互いのレベルアップにつなげている。		
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	談話室利用、食事会、各季節ごとの職員慰労の行事などを開催している。	○	事業内の交流会			
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者等は、事業所へ激励に来る事もあり、食事会を開催したり、年間の研修計画を組み参加することでの向上心や目標を持てる環境づくりに努めている。、給料制度も整備されている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>								
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	フェイスシートを活用し、ご家族からも出来る限り情報を得て、ご本人の理解を深めたり、リロケーションダメージを抑えいち早く環境に適合できるように心情に気配りをしている。					
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にフェイスシートを作成していただき、家族史の振り返りや関係の再構築に努めている。					
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係職種からの情報提供も含めさまざまなサービスの情報提供に努めている。					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	生活のリズムや今までの生活環境に近い生活が出来るように努めている。フェイスシートを活用し、ご本人への理解を深めいち早く環境に馴染めるよう職員の配置、共有スペースでの居場所、仲間作りなどに配慮している。				利用時には家族と共に事業所を見学し、事業所や職員の雰囲気を体感したうえで利用につなげている。 また、利用開始時には本人の生活歴などの多くの情報を収集し、早く馴染めるよう生活環境づくりに努めている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の得意、不得意を把握し失敗することがないようにさり気なく支援し、得意なことでの達成感も得られるようしている。				料理しながら調理方法や味付けなどを教わり、雑巾づくりや折り紙、人形、リーズづくりなどの創作活動も利用者と共に、職員が調理や裁縫など実践に生かしている。	
	28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	交流会や行事を通じ関係構築に努めている。家族の心配に着目し、一緒に支えられるよう配慮し接している。					
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時の報告、近況報告、広報での活動の様子や請求書郵送時に手紙や写真を添えるなどして活動の様子がわかりやすいものになっている。					
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時のお茶の提供、電話の取り次ぎ外出などの支援を多くするように努めている。広域の事業所であり必ずしも近隣の利用者だけではないため、日常的な関係の継続は困難な面も多い。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	談話コーナー、ホール、居室などお互いにゆっくりと会話し過ごす場面が見られる。雰囲気作りに配慮している。	○	個別レク企画書を作成し個々をもっと知り、可能性に気づく。			
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	移転先からの手紙や電話連絡があり関係を大切にしている。					
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>								
<b>1. 一人ひとりの把握</b>								
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いに添えるよう本人や家族からの情報収集、意向の引き出しなど傾聴の姿勢にあり、職員間で統一した対応を検討している。				利用者の生活歴などの情報に基づき、利用者を見守りながら声かけし、利用者の寂しい思いが表れる言動を把握して支援につなげている。 また、新任職員は現任職員の助言や関わりを学び、職員間で事例検討を重ねながらケアの標準化に努めている。	
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中で本人の思い、昔の生活の様子を引き出せるよう配慮している。入居時記入のフェイスシートでバックグラウンドし日常からの気付きも追記している。					
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の気分を捉えたアプローチを心がけており、その様子を記録し把握すると共に申し送りも確実なものとなるように努めている。					
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いや家族の意向を確認し、アセスメント、モニタリング、カンファレンスによりプラン作成にあたっている。				センター方式のアセスメントにより利用者及び家族の要望等を把握し、計画作成担当者や担当職員のほか全職員でカンファレンスを行いながら介護計画を作成している。	
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員はケースの担当を持ち、3ヶ月ごとのモニタリング、計画に対する達成度の確認、6ヶ月ごとのカンファレンスを実施している。状態の急変時や介護度の変更時は速やかにプランを見直している。				センター方式を用いて看護や介護内容等の記録をとり、基本的には3か月毎のモニタリングで見直している。 また、担当職員による気付きや毎月のユニット会議でも利用者の状況を確認しており、変化に応じて速やかに見直している。	

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を一部取り入れた独自のスタイルとなっており、日々の些細な変化も記録に残している。個別ノート、連絡ノートを活用し情報共有に努め、統一したケアの実践、介護計画の見直しに活かしている。					
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>								
	17 39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体施設との連携で、介護保健施設（認知専門棟）、専門病院があり在宅復帰を支えることのできる体制にある。				家族に代わっての通院介助や家族の宿泊などのほか、馴染みの理美容院への外出など柔軟に対応している。 また、母体施設の看護師や栄養士による関わりや、多目的施設「かやぶき荘」の活用など法人内で連携して機能を生かしている。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>								
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	地域ボランティア交流の長期継続、避難訓練による消防、民生委員の立ち合い、文化祭への出品、敬老会への参加、かかりつけ医の協力を得ている。					
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の介護保険サービス利用は困難にあるが、本人、家族の意向を確認しており入所前のケアマネジャー等との必要な情報交換は出来ている。					
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ対象となる方はいないが、必要であれば協働体制を取っていきたい。					
	18 43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人希望のかかりつけ医がおり、必要に応じ受診ができています。家族の都合により出来ない場合は職員が代行支援している。				利用者及び家族の希望に応じてかかりつけ医への受診を行い、状況に応じて夜間の往診も実施している。 また、協力医や母体老人保健施設の医師や看護師との連携により24時間の医療体制を確保している。	
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体施設に専門病院があり、必要に応じた相談、受診が可能である。					
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制により週1回健康チェックを実施しており、認知症状についても把握が万全で緊急時の対応も確実なものとなった。些細な変化や症状についての相談が出来ている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	速やかな情報提供、サマリーのやり取りで情報交換し入院中であっても訪問し状況の確認に努めた。					
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今年度より、重度化に対応した体制にあり家族への説明同意も得られている。職員の勉強会も実施している。			前回評価で課題としていた看取りに関する指針を明確にし、法人の医師や看護師などの連携、必要に応じて医療で対応することを家族にも説明している。 また、看取りの実績がないため職員は看取りに関する勉強会を重ね、方針の共有に努めている。		
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	昼夜問わずの医療処置は困難である事を踏まえた上で、本人、家族の要望に答える形となる。	○	死生観の教育、看取りについての勉強会の積み重ね、家族との面談			
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	フェイスシートを活用し詳しく情報提供している。心のケアに気配りしている。					
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>								
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>								
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>								
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心に配慮し、言葉の暴力及び言葉の拘束があることも意識し確認し合っている。個人情報の取り扱いについては適切に保護されている。			利用者の自尊心や尊厳を大切に、その方だけにわかるよう耳元で声かけしたり、日付を確認する方に貼り紙するなど、一人ひとりに合わせて支援している。 また、個人記録類は鍵のかかる書庫で管理しており、たよりの写真使用については同意を得ている。		
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望や思いを理解した上で、選択肢をわかりやすくアプローチしており、説明のタイミングも考えている。さり気ない支援により納得できる工夫をしている。					



外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務割をせず、その日のリズムとして捉え、天気や気分体調にあった生活が送れるよう支援している。			朝起きて掃除をする方や調理する方、行きつけの美容院に通う方など、利用者一人ひとりの気持ちを捉え、生活ペースを大切に支援している。また、健康体操など事業所のプログラムもあるが、強制することなく自由に参加できるよう支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>								
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自ら身だしなみが整えられるよう声掛けをし、行事や外出時特に化粧をする楽しみを味わえるよう支援している。理容、美容は行きつけや好みの店へ行き、家族の要望も取り入れている。					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材、地産地消をモットーにし食事全般に渡り、準備、片付け等役割を持ち行っている。食べたいものや好みの確認も行っている。			利用者の嗜好や旬の食材、地産地消などを考慮してメニューを作成し、食事の準備や後片付けを利用者と共に声をかけ合いながら行っている。また、職員が持参する弁当のおかずを話題にしたり、毎月のように外食に出かけ、食事を楽しくめるよう配慮している。		
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的に本人の好む物を望むだけ提供することは難しいが、誕生会、行事等で取り入れている。外食時等、希望のメニューを選んだり、買い物を楽しんでいる。					
	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	失禁があっても安易にオムツ使用に結びつかないよう他の方法を模索するよう心がけている。排泄及び行動パターンを把握し支援しており交換介助時にも他者の目にオムツが触れないように配慮している。					
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調に考慮し、本人の希望も確認しており、安全に入浴できるように支援している。			利用者の希望に応じて毎日でも入浴を可能にしており、夜間は主に足浴を支援し、入浴を拒む方には時間をずらすなどして対応している。また、浴室に手すりを多く設置し、窓辺には観葉植物を置き、近隣の温泉にも出かけるなど安全で快適な入浴を支援している。		
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	疲労感や夜間の就寝状況を把握し状況に応じ、休息を促している。安眠が取れるよう、アロマを活用し、照明にも配慮している。					
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれが得意なことを活かし、達成感や喜びを感じられるような生活を支援している。			利用者一人ひとりの状態やペースに合わせて掃除や洗濯干し、食事、植物への水やりなど役割を担っている。また、裁縫などの得意な分野を生かした創作活動や、カラオケなどの趣味活動も行い、笑い声のある楽しい生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方がお小遣い程度のお金を所持しており、買い物を楽しむ事ができている。支払いや計算能力、現金管理ができるよう支援している。					
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣散歩や事業車を活用し、個別や集団で目的を持って出掛けている。			近隣への散歩や隣接するケアハウスの売店や喫茶店に出かけているほか、外食や温泉、季節毎の行事などにも出かけている。 また、前回評価で課題としていた買い物についても近隣の商店に日常的に出かけ、外出の機会づくりに努めている。		
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者、家族と共に温泉旅行に出掛けている。買い物帰りや通院時、個人の希望に合わせて掛けられる機会を増やした。	○	個別レク企画の継続			
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手からのアプローチの方が多いが、気持ちの引き出しは行っており、いつでも対応できるように支援している。					
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お茶を提供したり、挨拶をするだけでなく、労いの姿勢や言葉掛けをしている。					
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルにあり身体拘束は理解している。更に言葉での暴力、拘束もある事も理解しており、日々、職員間で確認し合い意識を薄れさせないように努力している。					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中の施錠は行っていない。施錠による拘束感、閉塞感不安感を深く理解しており、貼紙、ドアセンサー、モニターを活用している。			日中は玄関に鍵をかけず、センサーにより出入りを把握しているほか、ホールから死角となる場所にはモニターを設置して利用者の安全を確保している。 また、利用者が一人で外出する際は危険がないよう見守り、時間や場所を考慮して声かけしながら付き添っている。	○	散歩など日常的な関わりを通じて近隣住民に利用者の顔を覚えてもらい、自然な形で見守りをお願いしているが、運営推進会議に地域住民の方が多数参画しているため、今後の働きかけ方法などを提起して検討してほしい。
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の気分や行動パターンの把握をし、モニターを利用することで必要以上の声掛けや介助をせず見守りをしており、安全性に問題があるときは適切な声掛けを行っている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	家事用品など刃物類は手の届かない棚に片付けている。手洗い・食器洗剤なども必要に応じ寄せる対応が図られている。洗剤（ハイター）は鍵付きの場所に保管、管理されている。					
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットノートを活用し、カンファレンス等実施にてその人にふさわしいリスク管理に努めており、ケアプランにも反映させている。					
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	救命講習会、AED使用の実践学習会へ参加しており、マニュアルも整備されている。急変時の対応については都度話し合い、確認している。					
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自動火災報知機の取り付けが完了しており、それに伴った地域参加型の避難訓練の実施、意見の集約もできている。			消防計画に基づき年2回の避難訓練を実施し、防災マニュアルの整備や地域住民の参加を得ながら緊急災害時の体制を整えている。 また、自動火災通報装置を設置し、非常口の砂利道を整備するなど設備や環境面でも配慮している。	○	非常持ち出し袋の点検とともに、避難訓練において地域住民の役割を明確にするなど、より実効性のある連携・協力体制の充実に努めてほしい。
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族へは想定されるリスクを説明し、行動制限や拘束のない生活支援への理解を求めている。ケアプランにも盛り込み同意を得ている。					
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、定期受診、体重測定を行っている。わずかな変化でも記録に残し、申し送り、観察が成されている。医療連携体制にあることで、看護師の協力もすぐには得られるようになった。					
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴と薬の内容がわかるよう個別健康シートを活用している。体調変化に伴う服薬調整はかかりつけ医が相談に応じてくれる。					
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	重大な疾病につながる要因と理解しており、細かな水分補給、健康体操、食事時の乳製品、食物繊維を積極的に取り入れている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、就寝前と個々の能力に応じた支援と声掛けをしており、介護記録のチェック欄も活用している。					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるような状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや嗜好などにも配慮し、食物繊維や季節の物を取り入れた献立としている。食べやすい形態にも配慮している。母体施設からの管理栄養士からの指導も仰いでいる。	○	重度化にも備えた指導を仰ぐ。	前回評価で専門家によるチェックを課題としていたが、母体施設の管理栄養士から指導を受けるなど、適切な栄養バランスの確保に努めている。また、食物繊維を取り入れた食事や水分摂取量に気を配り、食事や間食時にヤクルトやポカリスエットなどで水分補給している。		
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策のマニュアルが整備されている。施設内は、毎日消毒されており、感染対策用の使用物品がカートにまとめて準備されている。					
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用前の調理器具、食器全てに対し消毒、毎月1回の大掃除を継続実施している。食材に関しては、生の使用を極力避け、冷蔵、冷凍の保存方法にも配慮している。					
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>								
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭先玄関には、花や花壇、ベンチがあり、足を止めて会話する雰囲気がある。今夏、多目的施設（かやぶき荘）が建ち、見学がてらの立ち寄りも多い。					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	消毒の徹底と空気清浄機の活用により不快ない。開放的な窓から入る光や風により季節感を感じる事ができており、装飾などの工夫もなされている。			ホールは天窓があり明るく、フローリングの床暖を設備し、ソファや畳のスペースもあり利用者が好きな場所で過ごしている。また、事業所内には観葉植物が多く、利用者の創作品を飾り、空気清浄機も設備して快適な環境づくりに努めている。		
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーや各箇所にソファや椅子を置くことにより、思い思いの時間を過ごしたり、利用者同士の会話の場所としても活用できている。観葉植物を置く事で、落ち着いて過ごせる雰囲気作りをしている。					
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳、カーペット、寝具など使い慣れたものを使用し、花やぬいぐるみ、写真や使い慣れた品々で自分なりの部屋作りや工夫をしている。			ベットや収納タンスを備え付け、一人ひとりの好みに合わせて畳やカーペットを敷き、使い慣れた寝具や座布団を持ち込むなど居心地の良い空間となっている。また、写真や創作品を飾り、個性ある居室をつくり、穏やかに落ち着いて過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに換気し室温調整を心がけている。冷房のつけ過ぎ、暖房による乾燥に注意し季節に合わせた室温調整もできている。洗濯物やぬれタオルを干す、植物への水やりなどで保湿の調整も行っている。					
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー設計となっており、機能を考えた車椅子対応の洗面台、手すりの設置（トイレ内、廊下、居室Pバー）などの工夫がある。					
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	季節感のある装飾、日付記入などにより失見当識に対するアプローチを大切に、自己解決できるよう支援している。					
	87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇作り、鉢植えなどの作業を行い共に楽しんでいる。ベンチでのんびりと日光浴をしたり、豆もぎなどの協同作業の場ともなっている。					

※  は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個々の希望、生活のリズムや気分、不安がないか知ろうとし、気分の変化を把握することでチームケアにも結び付け柔軟で細やかな対応ができています。施錠をしない、外に出て行くことを拘束せずその意味も確認し合っている。毎日30分間の健康体操や散歩、掃除、家事作業を生活リハビリとして充分活用できており、その成果として、全員で花見や温泉、外食などを楽しむことが可能となっている。

食事作りにもこだわりを持ち、季節の食材選びや一緒に食事作り、片付けなど活動性があり、グループホームとしての役割、目的が果たされている。認知症があっても、限りなく自立した生活が継続できるよう、また誰かの何かの役に立っているという喜びを感じることで生活を支援している。より安全に安心した暮らしをサポートできるよう事例検討を重ね、職員のチームワークの強化にも取り組んでいる。